

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770400073		
法人名	有限会社 COM		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	輪島市山本町矢本前17番地2		
自己評価作成日	令和5年8月31日	評価結果市町村受理日	令和6年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和5年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナが5類に移行されたがこれまでと同様に利用者の体調に気を配っている。特に今年は酷暑だったため脱水や熱中症にも注意し利用者だけではなく職員も水分補給を心がけた。新型コロナの感染で利用者の入れ替わりが激しかったが、その都度きちんとアセスメントしケアプランを立て実行していた。思うように外出できない状況であっても、利用者の外に出たい思いに寄り添い、散歩をしたり自宅に戻ったりしている。また、利用者同士でうまくコミュニケーションが取れるよう座席にも気を配っている。一人一人が役割を持つことで楽しみややりがいを感じられるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との交流は難しい状況になっている。5類指定変更後に地域との交流について、再開し始めようとした矢先に事業所内でコロナ感染がおり、交流自体が先延ばしとなっている。利用者と一緒に買い物に出かけることはまだできていないが、以前のように地域へ出かけることについて話し合っているところである。魚の行商や和菓子の訪問販売などは今まで通り来てもらっている。
食事のメニューは、旬の物を取り入れたり、利用者の方から食べたいものを聞き取ったりしている。敬老会は、業者にお祝い御膳を注文し、利用者の方がお品書きを作り、皆でお祝いの食事を楽しんでいる。食事の準備は、出来ることを手伝ってもらっており、いろんな話をしながら、盛り付けや食事の準備をしている。コロナの影響で外食には、まだ出かけていない。そのため、誕生会などはテイクアウトで楽しんでいる。また、年に2~3回程度、餃子やお好み焼きなど自分たちの手作りメニューで食事を楽しむこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。ディサービスの利用者との交流も行っていたが、コロナ禍で行えない状況である。中重度の要介護状態になってもなるべく環境を変えず、住み慣れたホームで生活が出来るように支援している。パンフレットの中にも地域で暮らす視点を盛り込んでいる。	パンフレットには、具体的な支援内容、運営方針が記載されている。管理者・職員は日々の申し送りの最後に理念を唱和したり、カンファレンスの時に読み合わせて確認している。新しい職員が入職した時には、守秘義務・倫理・不適切ケアなどととも理念についてもオリエンテーションを行い周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	魚屋さんの訪問販売が来られ交流している。畑でできた野菜などを近所の方のご好意で頂いたりしている。地域の方のボランティアによる新年会やひまわりカフェで地域の方の参加や相談の場を設けているが現状はコロナの影響でなかなか開催する事が難しくなっている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との交流は難しい状況になっている。5類指定変更後に地域との交流について再開し始めようとした矢先に事業所内でコロナ感染がおり、交流自体が先延ばしとなっている。利用者と一緒に買い物に出かけることはまだできていないが、魚の行商や和菓子の訪問販売などがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡会が発足し同業者で勉強会を開いており、家族にも開放した勉強会を行っていたが、コロナの影響で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価や外部評価の提示、グループホームの利用者の状況を報告し、意見交換やアドバイスをしてもらっていたが、コロナの影響で外部との交流はできていない。	利用者・家族、輪島市、地域包括、区長、民生委員、輪島市社協等が会議のメンバーとなっているが、こちらも新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での開催には至っていない。そのため内部で検討した内容(新型コロナウイルス感染予防対策、利用者の状況、市祭りへの参加、今後の予定等)を議事録にまとめ各委員へ配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居待機状況や事故報告、退所後の困難ケース等で相談を要するケース等も相談しながらすすめている。運営推進委員会の報告、ポイントとなった点について報告する。自己評価、外部評価を報告し頻りに相談・連絡を行っている。	輪島市との連絡は主に代表者が行っている。特に困難ケースの場合には市と連携を取りながら行っている。輪島市の地域密着連絡協議会の活動の一環として、今年は介護フェアでのeスポーツのスタッフとして職員が参加している。5月には感染症の発生があり輪島市へ報告が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し各ユニットに掲示して全員で拘束をしないケアに取り組んでいる。カンファレンスで身体拘束の指針の読み合わせも行っている。外に出たい思いを受け止め、一緒に散歩をしている。	身体拘束適正化・虐待防止検討委員会を3か月に一度開催、また、カンファレンス時に研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ヒヤリハットが上がった時には、身体拘束にならないように話し合い取り組んでいる。新入職員が入った時にはオリエンテーションで必ず身体拘束や不適切ケアについての研修を実施している。事業所独自の身体拘束廃止についてのポスターを作成して掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないよう、指針を作成して職員で見過ごさないように取り組んでいる。言葉の虐待を行わないようにカンファレンスや全体会議等で言葉遣いのマニュアルを読んでふり返っている。職員間もみんな意識しながら行動している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度の研修にも参加し、学んだ事を他の職員にも伝えて学ぶ機会を持っている。GHの社会福祉士が第3者後見を行う活動しており、成年後見制度利用支援も行っている。職員会議で学習会も行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点にも答えている。また、気軽に相談にのれる体制である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価にともなって家族にアンケートを行い、意見や要望を業務に反映している。家族の面会時意見や要望を聞いて業務に反映している。	今年に入ってからも事業所内でコロナ感染が発生したため、家族との面会はまだ玄関で行っている。家族の意見・要望は、面会時によく話を聞くことケアプランの作成時に聴取することが主となっている。毎月お便りを作成して家族に送付して、利用者の最近の様子を伝えている。特に意見や苦情は寄せられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の定期的な開催、業務改善委員会を設置し改善の提案をまとめ取り組んでいる。個人面談も行い必要な事は話し合い改善するようにしている。また、利用者の受け入れについてもケアマネジャーに事前に相談し職員にも情報を伝えながらすすめている。日々状況が変わるため状態に合わせた運営方法を申し送り時に提案し、随時見直ししながらすすめている。	管理者は他の職員と同じシフト勤務に入っているため、毎日業務の中で職員の意見や提案を受けたり、カンファレンスの時に話し合い、業務の改善に繋げることもある。代表者は事業所の居宅のケアマネジャーとして毎日勤務しており、時にはグループホームのシフトの応援に入ることもあり、常に職員意見に耳を傾けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施、その後の結果で要検診の人には受診をするように働きかけている。努力や実績、勤務状況については把握し必要と思われる研修等に参加してもらおう等は行っている。労働組合がある為労働条件については協議しながらすすめている。就業規則も守っており、変更にも柔軟に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の段階に応じた研修に参加している。自己評価も取り入れ自分の意識や知識をチェックする機会をもち、それぞれの興味にそった研修の参加も行っている。会議の報告は回覧しており、重要な事は伝達し研修している。パートやアルバイトの方も研修に参加してもらっている。新人研修では介護技術、医療の分野等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会で同業者で研修会を開いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学、または本人宅を訪問したり、直接会う等をして、本人の不安を取り除き、本人の思いを聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時によく話しを聞くようにし、近くなってきたら確認のために聞き取りをする。入居してからは小まめに連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談ですぐにはGHの入居対応が行えない時はその方の状況に合わせて、他のグループホームを紹介したり問い合わせを行っている。また他のサービスを利用されている場合はその状況を含めてケアマネジャーさんと相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から人生の機微について学び、野菜の育て方や処理の仕方、料理等教えてもらっている。年長者の絶妙な話に励まされることは度々ある。互いに支えあいながら暮らしている。食事作りや洗い物洗濯干したために掃除等生活するうえで非常に頼りになる存在。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を報告しながら、認知症になる前の様子等情報交換を密に行っている。家族の思いも聞き、一緒に本人を支えるように努力している。家族便りに担当からのコメントを入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限された中でマニュアルに沿った面会、リモート面会を行っている。散歩に出かけた時等馴染みの人に声をかけてもらう事もある。行きつけの理髪店へ行ったり、利用者さんの家族で髪切りをしてもらっている。	コロナのため居室での面会はまだできていないが、家族だけでなく友人も面会に訪れている。コミュニケーションは電話や手紙でのやり取りが中心となっている。制限はあるが、冠婚葬祭など特別な時には利用者が家族と出かけることもある。感染状況を見ながら自宅へ帰る外出を計画しているところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないの関係を把握し、利用者同士の会話や言動に注意している。関係がスムーズにいくよう座席の配置を工夫し、職員は状況をみながら個別に会話をしたり、全員参加型のレクリエーション等で一体感が持てる様に工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に出会った時は気軽に挨拶している。入院後の行き先の確保などもケアマネジャーとして行っており、落ち着くまでは支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、日々一人ひとりの思いや、希望、意向の把握に努めて介護計画等にも盛り込んでいる。言動の背景や原因を利用者サイドから捉えられるように努力している。家族からも意見や要望も聞きながら、本人にとってどうすればいいか、家族や職員と一緒に検討している。	ひとり一人の思いをしっかりと把握することができるよう、利用者の生活歴や入居後に職員が把握したこと等を共有して、本人本位の検討ができるように努めている。家族から聞いたことも大切な情報となることもある。いつも「ばあちゃんどこ行った」という利用者がいて、職員はその人の言う「ばあちゃん」がわからなかったのであるが家族からそれは本人の母親のことであるという事を聞き、「ばあちゃん」を探し始めた時の職員のかかわりに大変役立ったことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方は、継続したかわりの中から家族や親戚や本人から情報を聞き把握出来ている。またアルバム、家族の写真など部屋に飾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方や体調の変化など必ず申し送り、把握している。出来ること出来ないことを見極め、ケアプランに沿って実行できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の中の活用部分を決めて、職員で検討し、介護計画に生かしている。またターミナルなどのケースについては、家族を交えた介護計画の充実を図っている。本人との話し合いもやっている。	担当職員がアセスメントを実施してケアマネジャーとともに生活援助計画(ケアプラン)を作成している。カンファレンス時に担当者会議を開催してプランを周知している。モニタリングは特に変化がない場合には3か月毎に、プランの短期目標について実践状況、目標達成状況について評価を行っている。利用者の状態に変化が見られた時にはその都度モニタリングを早めて対応している。記録はタブレットで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は今年4月から電子化された。ケアプランの項目に関する記載の充実、申し送り事項の確認の強化や申し送りノートも活用し、情報の共有を図っている。電子カルテの記載は、ケアプランの項目で検索することができ、プランの評価、計画の立案に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況、入居者の状況に応じ、突発的な事柄にも柔軟に対応している。グループホームの入居者は、主治医と協力してホームの看護師で処置や点滴を行う等、入院による環境の変化を避ける対応を行っている。継続入院が困難な場合は早期の退院で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の方が入っており、地域行事の参加等すすめてくれている。消防署は避難訓練時、毎回指導に入っている。地域行事は感染対策の為、中止になっている事が多く参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の関係もあり、内科は事業所の協力医療機関の医師にかかってもらうように説明し納得を頂いている。従前のかかりつけ医には紹介を頂いている。必要に応じて他科の受診を行い、必要時には家族にも通院に同行してもらったり、付き添いをしてもらっている。	輪島診療所(内科、整形外科)が利用者のかかりつけ医となっている。診療所の医師は月に一度往診してくれて利用者の健康管理を行っている。その他の診療科の場合には事業所で通院送迎を行い支援している。輪島市民病院も割合近くにあり、利用者は適切な医療を受けている。歯科は往診医が対応してくれている。歩行の難しい方には、車いす送迎車で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員に看護師がおり日常の健康管理や医療支援を行っている。また協力機関の看護師に気軽に相談でき医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のオープンベッドを利用して入院することも多く、かかりつけ医が病院に様子を見に行く事ができる。また、入院時に病院への情報提供を行ったり、病状等を確認する等の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する以前に本人と家族に希望を聞いている。病状の変化については、早めに主治医や家族と相談を行っている。その人その人の医療依存度の問題があるため、早めに栄養評価を受けたり、紹介を受け他科への受診や検査を受け、変化に対応している。またその状況についてや方向についてはケアマネージャーや職員と家族が共有するようにしている。看取りマニュアルを作成し、家族に説明していつている。	重度化した場合には、家族と話し合いながら方針を決めているが、医療依存度が高い場合や費用面で特養に入居する場合を除いて、ほとんどグループホームでケアしている。そのため看取りの事例も多く、今年もすでに2件の看取りを行っている。家族の希望があり、主治医が症状等の説明を行い、看取りのプランを作成して行っている。医療面でのサポートは主治医の他、事業所の看護職員が行い、事業所全体で看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒、窒息等緊急時対応の研修に参加し全員で学んでいる。AEDを設置し対応できるよう消防署による研修も行っている。マニュアルを作成し常に学習している。連絡体制も整備している。またヒヤリはっとで原因解析を深め、対策出来る様になっている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	利用者さん「緊急対応マニュアル」をユニット毎に置きいつでも見られるようにしている。緊急事態に対応する体制を整備している。	「業務マニュアル グループホーム」のファイルの中に「介護動作基本マニュアル」など事故対応に関するマニュアルも含まれている。また、「感染対応委員会」というファイルの中に、感染予防に関するマニュアルが含まれている。感染対応委員会の開催は、今年度は4月と6月の2回実施している。ヒヤリ・はっとや事故報告書は、その日の申し送り報告され、また回覧することで職員へ周知している。そして、「利用者さん急変時対応夜勤編」は、事務所の電話の横、各ユニットのカルテに綴られ、いつでも見ることができる。そして、マニュアルの周知のため、新人職員へはオリエンテーションで説明している。それから、マニュアルをコンパクトにして携帯できるものの作成に、現在取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	主治医が月2回往診し、日頃から利用者の様子を把握している。必要に応じ24時間電話で指示を仰ぐ事が出来る支援体制が確保されている。	協力医療機関は、市立輪島病院、輪島診療所、市内の歯科医院である。往診は輪島診療所の医師が2週間に1回来てくれ、利用者は月1回は診察を受けている。また、夜間や緊急時などの連絡、ワクチン接種や予防接種などでも密に連携している。救急対応は、輪島診療所を通して輪島病院に搬送してもらっている。バックアップ施設であるあての木園とは、コロナの状況も完全に改善していないため、ほとんど行き来はないが、情報交換で連携している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	ユニット毎に夜勤者が配置され緊急時に対応できる体制になっている。また、職員が近隣に住んでおり、連絡を受け三分～五分以内に駆けつけることができる。また、主治医とは24時間電話連絡が可能で指示を仰ぐことができ、緊急時に対応できる体制になっている。	2ユニットで、2人夜勤である。19時30分から翌朝7時まで2人体制である。この夜間帯に利用者の状態の変化があった場合、各ユニットの看護師へ連絡し、指示を受けている。今年度はないが、夜間帯に救急車を呼んだ場合は、0時以前なら遅番が対応し、0時を過ぎていれば早番が対応することになっている。また、近所に職員が住んでおり、応援を依頼することも可能である。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練や設備点検を実施している。また、毎回消防署員が来て指導を得ている。月1回机上訓練を行っている。ドライブもかねて利用者の車の乗りこみ訓練も行っている。	毎年3月と10月ごろに、消防署立ち会いで、消火訓練、避難訓練、通報訓練含む総合訓練を行っている。今年の3月の訓練では、救急救命講習も実施されている。防災訓練は、「消防訓練実施要領 マニュアル」や「夜間想定避難訓練 実際の動きマニュアル」などにに基づき実施している。訓練の報告は、運営推進会議で報告され、議事録に残されている。議事録には、消防署員の助言の内容や質疑応答についても記録されている。また、月1回、日を決めて、申し送りの後に行動確認のため机上訓練を行い、職員の防災意識の向上に取り組んでいる。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	輪島市防災マニュアル(地区毎)の他、独自の防災マニュアルを作成し、マニュアルに基づき訓練を実施している。また、備蓄品リストが作られ、リストに基づいて備蓄品を確保し、利用者の安全確保のための体制が整備されている。BCPを作成しており職員会議で全職員に周知している。	業務継続計画(BCP)は、今年度作成し、職員へ周知する段階となっている。マニュアルは、「輪島市防災マニュアル(地区毎)」が設置され、「避難訓練マニュアル」というファイルの中にも防災に関するものが綴られている。備蓄は、玄関のボックスの中に、水、非常食、衛生用品、応急処置セットなど、備蓄リストとともに保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いがマンネリ化しないよう定期的に接遇研修を行い振り返りながら意識づけを行っている。誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている。時々方言も交えてわかりやすいようにしている。	日々の生活で、利用者自身が思いを表現できるよう取り組み、本人の思いを引き出すような関りを心がけている。居室には必ず声かけして入るようにしている。また、トイレの声かけなどは、耳元で行うようにしている。そして、丁寧な言葉遣いを継続していけるように、年に1回程度接遇研修に取り組んでいる。今年度は11月に実施する予定である。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ、その人の考えや思いを自分から表現出来るような働きかけをしている。見たい番組やビデオ、食べたい物、塗り絵の絵柄等を選んでもらったり、意思表示が出来ない人であっても表情を観察しながら本人の希望を支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常よりコミュニケーションを取り、行動を見守りながらそれぞれにできる事を見極めていって、自発的な希望が見つけれられるように関わっている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみに気を付け、清潔感が感じられるように支援している。外出する時は本人の希望の服装で出かけている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から後片付けまで個々にあったお手伝いをしていただいている。季節感を大切に旬の食材を使った献立や調理方法を聞いたりして楽しい話題作りをしている。利用者の好みを聞いてメニューに入れている。個々の状態に合わせ食事形態を工夫している。	食事のメニューは、旬の物を取り入れたり、利用者の方から食べたいものを聞き取ったりしている。敬老会は、業者にお祝い御膳を注文し、利用者の方がお品書きを作り、皆でお祝いの食事を楽しんでいる。食事中は、飛沫防止アクリル板を置き、対面で食べている。ただ、黙食している方もいるし、職員と食材の話などしながら食べている方もいる。食事の準備は、出来ることを手伝ってもらっており、いろんな話をしながら、盛り付けや食事の準備をしている。現在も外食には取り組んでいない。そのため、誕生会などはテイクアウトで楽しんでいる。また、年に2～3回程度、餃子やお好み焼きなど自分たちの手作りメニューで食事を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食チェックしており、水分量も把握している。摂食が困難になってきた場合は形態を変えたり栄養補助食等を使い栄養バランスを考慮している。水分は本人の好みに応じて好きな飲み物やゼリー等でもとってもらっている。定期的に献立や食事・水分量が適切か見直しをしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄うがいをしている。一人一人の状態に合わせて介助をしたり声かけをし、口腔内の清潔に努めている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、タイミングをみてから現状で必要な排泄支援を行っている。プライドが傷つかないように配慮し、なるべく便器に座って排泄できるよう工夫している。	排泄チェック表を活用し、本人の排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行い、失敗を防ぎ、トイレで排泄できるよう支援している。介助は、現状でその方に必要な排泄支援を行い、プライドが傷つかないように配慮している。また、衣類の調節などで、排泄しやすいような工夫や、排泄の間隔が長い場合は声掛けし、トイレ誘導するよう取り組んでいる。また、パッドや紙パンツの使用量が家族の負担にならないよう、可能な限り汚れないようトイレで排泄できるよう支援している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は時間を決めて定期的に飲んでもらっている。便秘症の方には、繊維質の食べ物を多めにしたり乳酸菌の飲み物やヨーグルトを摂取していただく等予防に努めている。なるべく自然排便を促すように努力している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴をしていただいている。入浴を拒む方には、無理強いくことなく本人の意向や言葉がけの工夫をしている。冬場はリフト浴の日を決めなるべく浴槽に入れるよう支援している。	各ユニットとも、日曜日以外はお風呂がわいている。週2回は入浴してもらい、それ以外にも必要に応じて入浴やシャワーが必要な方もいる。ゆず湯、菖蒲湯、希望する方には入浴剤を使い、気分転換している。お風呂の好きな方には、その方の湯加減で、のんびりと満足するまで入浴してもらっている。入浴を拒否する方には、時間を変えて声掛けしたり、曜日を変更するなどして無理強いことはしない。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷房や暖房の設定温度や湿度等を配慮し、安眠できるよう支援している。日中でも個々に応じて休息が出来るよう支援している。寝具は季節に応じた物を使用しシーツ・包布はいつも清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に関するファイルがあり、いつでも職員がみられるところにある。また、内容についてもカンファレンスの時に学習会を行っている。また状態を日常の記録に残して医師へ情報提供し治療に活かしている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換にドライブ、散歩、外に出る機会を作っている。その方の趣味、得意とすることを生かし役割を持ってしていただいております、上手い時は職員も一緒に喜びを分かち合っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々ドライブに出掛けているので、その都度希望を聞いて行っている。行事としてお花見や市祭に出掛けた。散歩、ドライブ等その方の状態に合わせて支援している。外出を好まない方も車椅子で散歩している。選挙の投票にも行ってきた。	気候の良い時期には、毎週日曜日にドライブに行っている。門前の海、ダム、紅葉、千枚田など景勝地に出かけ、車から降りて景色を見ている。また、市のお祭り見物や美術館に行き作品鑑賞をしている。この他、散歩や選挙の投票にも出かけたりしている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回、パン屋が来たときに選んでもらい支払いする支援をしたりしていた。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば家族の方に電話をしている。また意思表示ができない方でも、その時の状態を見て話しができそうな時は職員が家族の方に電話をして会話をしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花や壁飾り、置物などを工夫している。照明や光も適度であり居心地よく過ごせるようになっている。玄関先や窓際に花や野菜のプランターを置き、畑の花が見えて季節感を楽しめるようになっている。ベンチを設置する等、親しみやすい雰囲気になっている。リビングから外の景色を見ながら季節や人、鳥の動きを楽しんでいる。	毎年プランターに花と野菜を植えている。今年は、猛暑のせいか花はほとんどダメになった。現在は、春の球根を植える準備をしている。日中は、多くの利用者の方がリビングに集まるが、陽ざしによりテレビが見えなかったり、窓側は暑く、廊下側は寒いなどとなるため、カーテンで陽ざしを調節したり、空調で温度を調節し、快適に過ごせるよう配慮している。また、リビングの壁飾りは、季節ごと、行事ごとに変えている。利用者の方に作品を作ってもらい、それを1つの作品に職員の方で仕上げ、季節が感じられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休息するソファの位置や、座席の配置を工夫している。玄関ポーチや玄関にも座れるところがあり、気の向くまま利用者は活用されている。また、二階にもソファがあり一人になれる場所もある。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビを相談しながら持ってきてもらうようにしている。それぞれのその人らしい部屋になっている。各個人で好きな風景のポスターを選んでもらい部屋に貼っている。	馴染みの物は、人形などの小物と寝具を持ち込んでいる。能登半島地震以降、ダンスなどの大きなものは、利用者と相談し、持ち込んでもらっていない。居室の掃除は、2日に1回職員の方で行い、清潔を保っている。掃除をする際は、本人に声をかけてから居室へ入っている。ただ、気になる方は、一緒に掃除をしたり、本人の目の前で、本人に分かるように掃除している。ポータブルトイレを使用している方の場合、使用したことが分かったら、直ちに処理するようにしている。ただ、本人のプライベート空間なので、本人が自由に使っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間違えやすいところには表示を行い、状態に合わせて声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。		